



# 農政課題解決研修情報

農政課題解決研修(革新的農業技術習得支援研修)事務局 (連携普及部 連携普及企画室(担当:大島))  
電話 029-838-7599

## <研修実施状況>

### ○園芸施設の低コスト構造・環境制御技術

農村工学研究所では、9月9日から12日にかけて岩手県から宮崎県に至る21県から29名の参加を得て標記に係る研修を実施しました。園芸施設の低コスト構造・環境制御技術の習得のため、①保温と資材、②冷房③光と生育、④暖房と燃料、⑤換気・気流制御、⑥高度先端施設園芸の現状と将来、⑦ヒートポンプ、⑧地中熱利用ヒートポンプシステムの特徴と研究開発プロジェクトの紹介、⑨施設見学Ⅰ、⑩被覆資材、⑪エネルギー消費と環境負荷の評価、⑫中国の施設園芸の最新情報と日本型日光温室の今後の課題、⑬現地視察⑭暖房燃料消費量の試算、⑮施設見学Ⅱについて講義、現地視察及び施設の見学を行いました。

特に「施設見学Ⅰ」については、「大型の風洞施設を見せていただき、とても参考になりました。」「農村工学研究所の研究の一端を知ることができても有意義でした。」等の意見があり、研修生の関心が高い科目でした。

研修実施後のアンケートによれば、全体の満足度について、「大変良かった」が24%、「まあまあ良かった」が52%と良好な評価を頂きましたが、他方「研修初日は午後からとして欲しい」、「各科目間に5分程度の休み時間が必要」、「パワーポイントの打ち出しが欲しい」などといった具体的なお意見・ご要望も寄せられました。

今後は、これらご意見・ご要望を踏まえつつ、開発された新技術が速やかに生産現場へ普及するよう、より充実した研修にしていきたいと考えています。

(担当:農村工学研究所 技術移転センター 技術研修課 大勝)



胡蝶蘭の栽培農家の視察



温室暖房燃料試算システム操作実習

### ○果樹栽培の省力・軽労化と高品質安定栽培技術

近畿中国四国農業研究センター四国研究センター(香川県善通寺市)では、10月1日～3日にかけて、8県からの参加を得て標記に係る研修会を実施しました。

本研修会は、カンキツ栽培の軽労化と高品質安定生産の最新の研究成果を紹介し、その技術を習得していただくとともに、産地ブランド確立による競争力の強化に向けた取り組みについて、情報交換を行い現場での普及活動に生かしていただけるように企画しました。主な内容は、「マルドリ方式の高度利用」、「果樹栽培における省力・軽労化のための技術開発と作業体系」、「軽労働で高品質果実生産を実現する園地整備技術」に関するもので、農村工学研究所、生物系特定産業技術研究支援センターの協力を得て、四国研究センター傾斜地園芸研究領域において得られた研究成果を中心に講義と実習を行うとともに、テーマ毎に講師との意見交換も行いました。また、最終日には、「団地型マルドリ方式」に取り組んでいる先行導入事例の現地視察を行うとともに、研修内容を踏まえて、「産地ブランド型営農モデルの確立」をテーマとして産地における展望と普及上の課題について、受講生と全講師を交えた「情報・意見交換」を行いました。アンケートでは、「1コマの時間が短かった。」、「内容が高度すぎる部分もあった。」、「他県の取り組み状況についてもっと知りたかった。」等の意見・要望も出されましたが、研修全般を通して理解を深められた等の高い評価をいただきました。

なお、近畿中国四国農業研究センターでは、関連する技術情報を以下のサイトで公開しておりますので、是非ご覧ください。

近畿中国四国農業研究センタートップページ

(<http://www.naro.affrc.go.jp/warc/index.html>)の関連情報メニュー欄からお入り下さい。

(担当:近畿中国四国農業研究センター 業務推進室 五味)



点滴かん水チューブの設置実習



現地視察(液肥混入システムを共同利用している現地)